

B. 生徒指導に関する研究

鈴木洋一郎 中野 満男 米山 誠 米田 閔一
丸山 豊 齊藤 真子 高橋 守

中学生・高校生の図書館利用の実態と問題点

米山 誠 ・ 齊藤 真子

1. 生徒の実態に即した図書館のあり方を求めて

学校図書館がその使命を果たすためには、必要な設備、図書資料等を充実させることと同時に、生徒の学習・読書等にそれらを有効に活用させることを計らなくてはならない。そのためには、生徒の利用状況、意見、希望等を、できる限り具体的に把握し、適切に対応していく必要がある。例えば、本校図書部が54年度実施したアンケート中の「自分の求める図書が館内に見当たらない時はどうするか」という問いに対して、「司書、係りの先生、図書委員等にたずねる」という類の答え方をした生徒は、全体の答えの中で、中学生の場合、約30%、高校生の場合、約10%であった。他の大多数は「あきらめる」「他の図書館や書店へ行って探す」という答えであった。こういう実態に対しては、図書の探し方、係りへの問い合せ、購入希望の申し込み等、基礎的な利用方法を十分に指導すべきこと、また、それに即応できる態勢を整えるべきことなど改めて反省させられる。要するに、図書館運営は、設備の充実と利用指導とを共に進めてこそ図書館

の機能を生き生きと発揮させようといえよう。そのために実態調査は不可欠である。

さて、54年度中に、本校図書部としては、中学・高校新入生対象の読書傾向調査、中・高全学年対象の第1学期中の利用状況調査、学年末の年間中・高全生徒貸出冊数調査等を行なった。

次の第2・3章において、過去5年間における年間貸出冊数の推移状況および54年度1学期における利用状況を調査結果に基づいて述べたい。参考のため、本校図書館についてごく簡単にふれておく。

本校図書館は、中学（各学年2学級）、高校（同3学級）共通の施設であり、利用規定、運営組織等も共通である。日常の運営には、学校司書2名（1名は非常勤）、図書部教諭3名が携わっている。開館は原則として毎日（授業日）で、館外貸出も毎日行う。貸出冊数は1人1回2冊までとし、期間は1週間以内である。生徒用蔵書数は24,550冊（54.4.1現在）で、分類別冊数は次表の通りである。また館内の新聞および生徒用雑誌の種類も記しておく。その他、詳細については、本校「図書館案内」（54年度版）を参照されたい。

分類別	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
	総記	哲学 宗教	歴史	社会 教育	自然	工 学 家庭	産 業	芸 術 体 育	語 学	文 学	
冊数	1,613	1,420	3,307	4,534	3,281	786	339	1,740	898	6,631	24,550
%	7	6	13	18	14	3	1	7	4	27	100

新聞 朝日新聞、毎日新聞、中日スポーツ

生徒用雑誌 中一時代、中二時代、中三時代、高一時代、高二時代、蛍雪時代、子供の科学、中学生文学、科学の実験、自然、高校英語研究、中央公論、世界、文芸春秋、朝日ジャーナル、毎日グラフ、科学朝日、週刊朝日、アニメ

なお、学校司書の中山滋子さんには、過去5年間にわたって、各年度全生徒個人別の年間貸出冊数を記録された資料を提供していただくと共に、その資料整理にもご協力をお願いした。また、図書部の山田雄一教

諭には、54年度第1学期貸出冊数調査と統計表作成にご協力をいただいた。お二人のご尽力に心からお礼を申し上げたい。

2. 名古屋大学教育学部附属中学・高校生徒の過去5年間における図書貸出冊数の推移状況

表 A 中1から高3まで年間生徒1人平均貸出冊数

年度		48		49		50		51		52		53		54		計		
学年																		
中 学	1	男	7.3	4.8	10.6	6.2	5.5	4.0	12.3	6.2	12.4	6.9					9.6	5.6
		女		9.6		15.0	7.1	18.1		18.6		13.7						
	2	男			9.2	4.6	6.4	2.2	6.9	4.0	7.7	3.6	5.9	4.8			7.2	3.8
		女				13.4		10.6		9.9		11.5		6.6				10.4
	3	男					7.8	5.0	3.7	1.6	4.4	2.4	6.2	2.6	8.1	6.1	6.0	3.5
		女				10.3		5.7		6.5		9.5		10.3		8.5		
計						6.6	3.7	7.6	3.9	8.2	4.3							
							9.3		11.2		12.2							
高 校	1	男	6.7	4.6	3.8	2.5	4.6	2.9	2.6	1.5	2.7	1.3					4.1	2.6
		女		8.7		5.0		6.2		3.6		4.6						5.6
	2	男			6.8	8.5	2.3	2.5	3.1	1.6	1.9	1.1	1.9	1.5			3.2	3.0
		女				5.1		2.1		4.6		2.6		2.4				3.3
	3	男					2.7	3.6	1.2	0.7	1.4	0.7	0.4	0.2	1.0	0.2	1.4	1.1
		女				1.8		1.8		2.1		0.5		1.9		1.6		
計						3.2	3.0	2.3	1.3	2.0	1.0							
							3.4		3.3		3.1							

表 B 中学・高校1人当たり3年間分貸出冊数分布表

(中 学)

(高 校)

冊数	50年度		51年度		52年度		53年度		54年度	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
100冊以上		100 1		197 2		115 2		295 2	143 1	217 1
90～99		1					1	1		
80～89	1			1				2		1
70～79		1		1				1		1
60～69		3 (1)		1	1	3		1		1
50～59		3	1	3				1 (1)	2	4
40～49	3	6	1	3		5		2	2	
30～39	1	7		5	1 (1)	3	3	4	4	9
20～29	5	5	1	6	3 (1)	1	4	7 (1)	4	13
10～19	6	12	15	13	10	7	9	6	5 (1)	8
1～9	22	4 (1)	23 (3)	10	20	11	20	12	23	2
0	3		1		4	7	2		3	
0の%	3%		1%		14%		3%		4%	
卒業学年生徒数	86名		90名		80名		80名		85名	

冊数	50年度		51年度		52年度		53年度		54年度	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
100冊以上	109 2		106 1	175 1		(152) 1(1)		111 1		
90～99									1	1
80～89										
70～79	2	1					1			
60～69	1	2			1	1				
50～59	1									1
40～49	1	3		1	1 (1)	1		2		
30～39	5	4	1	2		1		2		2
20～29	1	5 (1)	2	1	1	3	2		2	4
10～19	16	11	5	13	8	10	3	4	1	6
1～9	37 (1)	28	34 (2)	29	29 (1)	25 (1)	28	38 (2)	25	30
0	10 (2)		33 (2)	11	27 (2)	17	30	21	41	15
0の%	8%		32%		33%		38%		43%	
卒業学年生徒数	134名		138名		133名		133名		129名	

()は途中で転入ないしカードを紛失した生徒

100冊以上で上に小さく書いた数字は、最高貸出冊数である。

表Aをみると、中1から高3まで、6年間で、中1で平均10冊借出すのが、学年が進むにつれて減少し、高3では、平均1冊となり、貸出冊数だけを取りあげれば、 $\frac{1}{10}$ になるといえる。また、中・高を比較してみると、中学生は、10冊、7冊、6冊と減少傾向ではあるが、比較的中3になってもよく借出すのに、高校生は4冊、3冊、1冊となり、総冊数でも中学生の4割、特に高3は借出さない。

また、表Bをみると、高校生の貸出冊数が中学生と比して、少ない事に気づくが、その最たるものは、三年間、1冊も借出さなかった生徒、すなわち、0冊の生徒が、8%、32%、33%、38%、43%と、年度を追って、過半数を占める勢いで増加している事である。

若者の「活字ばなれ」はよくいわれることであるが、これらの表からは、中学生については、それほど大きな「活字ばなれ」の変化はないといえようが、高校生においては、著しくあらわれてきている点である。特に高3生に象徴されるが、受験等の影響もあろう。

次に、男女差ということでは、女子がよく本を読むと、一般にいわれるが、貸出冊数についてもそれはいえる。中学生では、女子の方が、男子より、2~3倍貸出冊数が多い。高校生も同様に女子の方が多いが、

中学生程の差はみられない。(但し、50年度高校卒業生については、高2、高3で、男子が女子の倍になったり、他の年度と比べて貸出冊数が多かったりするがこれは、高校選抜が、現行の抽選制導入以前のためとも考えられる)

3. 54年度第1学期における生徒の図書館利用状況

A. 54年度第1学期中の中学生・高校生の学校図書館利用状況に関するアンケートの結果

○ 調査対象

・名古屋大学教育学部附属中学校生徒 (全6学級)

{ 1年生 83名 (男子 45名・女子 38名)
 { 2年生 87名 (" 42名・ " 45名)
 { 3年生 84名 (" 45名・ " 39名)
 合計 254名 (" 132名・ " 122名)

・名古屋大学教育学部附属高校生徒 (全9学級中の6学級)

{ 1年生 86名 (男子 38名・女子 48名)
 { 2年生 89名 (" 50名・ " 39名)
 { 3年生 85名 (" 46名・ " 39名)
 合計 260名 (" 134名・ " 126名)

○ アンケート実施時期 54年7月18日

(1) 何回程度図書館を利用したか (平均的な回数) (中 学)

	1 年			2 年			3 年			全 学 年		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計 (%)
1週に6~4回	12	8	20	14	5	19	17	2	19	43	15	58 (23)
" 3~1 "	10	11	21	13	16	29	19	16	35	42	43	85 (33)
1月に2~1 "	4	12	16	3	14	17	7	10	17	14	36	50 (20)
" 0 "	19	7	26	11	10	21	2	11	13	32	28	60 (24)
計	45	38	83	41	45	86	45	39	84	131	122	253 (100)

(高 校)

	1 年			2 年			3 年			全 学 年		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計 (%)
1週に6~4回	5	8	13	5	1	6	0	0	0	10	9	19 (7)
" 3~1 "	11	7	18	20	17	37	7	5	12	38	29	67 (26)
1月に2~1 "	11	11	22	12	15	27	18	18	36	41	44	85 (33)
" 0 "	11	22	33	13	6	19	21	16	37	45	44	89 (34)
計	38	48	86	50	39	89	46	39	85	134	126	260 (100)

中学全体をみると、週に1回以上が56%。したがって、月2回以下0を含めた数は半分に近い。高校では、

週1回以上は約 $\frac{1}{3}$ 、月2回以下が0を含め、 $\frac{2}{3}$ となる。0回は中学24%、高校34%を占める。

(2) 主として、どんな目的で図書館を利用するか。(二つ記入)

中学生・高校生の図書館利用の実態と問題点

(中 学)

	1 年			2 年			3 年			全 学 年		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
読書する	9	16	25	3	9	12	3	6	9	15	31	46
雑誌を読む	22	15	37	25	22	47	21	14	35	68	51	119
新聞 "	10	0	10	23	0	23	13	0	13	46	0	46
図書を借出す	12	20	32	9	27	36	4	17	21	25	64	89
研究・調べ	3	3	6	3	1	4	25	26	51	31	30	61
座席を借りて勉強	7	9	16	2	8	10	8	4	12	17	21	38
友だちとつき合う	10	7	17	5	6	11	7	3	10	22	16	38
何となく過ごす	10	4	14	7	11	18	6	6	12	23	21	44
そ の 他	5	2	7	7	6	13	2	1	3	14	9	23
計	88	76	164	84	90	174	89	77	166	261	243	504

(高 校)

	1 年			2 年			3 年			全 学 年		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
読書する	9	5	14	2	4	6	2	4	6	13	13	26
雑誌を読む	10	7	17	14	3	17	5	6	11	29	16	45
新聞 "	19	4	23	19	4	23	14	3	17	52	11	63
図書を借出す	3	15	18	4	10	14	0	7	7	7	32	39
研究・調べ	3	7	10	24	17	41	15	22	37	42	46	88
座席を借りて勉強	5	13	18	7	15	22	18	13	31	30	41	71
友だちとつき合う	10	8	18	9	11	20	8	5	13	27	24	51
何となく過ごす	2	9	11	9	5	14	16	11	27	27	25	52
そ の 他	7	12	19	6	4	10	4	2	6	17	18	35
計	68	80	148	94	73	167	82	73	155	244	226	470

中学生は、①雑誌を読む、②図書借出し、③研究・調べの順に多く、高校生は、①研究・調べ、②座席を借りての勉強、③新聞を読むの順に多い。

読書及び図書借出しは、中学で9%と18%であるのに対して、高校では、それぞれ5%、8%とほぼ半減する。図書借出しは、中学・高校ともに、女子に多く、

男子に少い。新聞の閲覧は、男子が圧倒的に多く、差が目立つ。「友だちとのつきあい」、「何となく過ごす」は、中学で約20%であり、高校では約30%と増える。こうしてみると、積極的な意味での図書館利用の率はかなり低いと言わねばならない。

(3) 図書館の本を何冊借り出したか。

(中 学)

	1 年			2 年			3 年			全 学 年		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計 (%)
0 冊	17	4	21	21	6	27	24	14	38	62	24	86 (34)
1 ~ 4 "	21	28	49	15	23	38	16	19	35	52	70	122 (49)
5 ~ 10 "	2	4	6	2	7	9	4	3	7	8	14	22 (9)
11冊 以上	5	2	7	4	7	11	1	1	2	10	10	20 (8)
計	45	38	83	42	43	85	45	37	82	132	118	250 (100)

(高 校)

	1 年			2 年			3 年			全 学 年		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計 (%)
0 冊	32	31	63	34	14	48	42	20	62	108	65	173 (67)
1 ~ 4 "	2	5	7	14	20	34	4	19	23	20	44	64 (25)
5 ~ 10 "	3	6	9	2	3	5	0	0	0	5	9	14 (5)
11 冊 以上	1	6	7	0	2	2	0	0	0	1	8	9 (3)
計	38	48	86	50	39	89	46	39	85	134	126	260 (100)

中学では、0冊の者が34%。それを男女別にみると、男子は47%、女子は20%である。高校では、0冊の者、67%。男子80%、女子52%である。0冊の者の率を中学・高校とも学年別にみると、中一25%、中二32%、中三46%、高一73%、高二54%、高三73%となる。全体としてみると、男女とも、高校生になると中学生に比べて、図書を借出す者がおおよそ半減する。この実態がはたして何を意味するのか、第2章に示した過去5年間貸出冊数推移状況の資料とも関連させて十分に検討してみなくてはならない。

(4) 学習や研究・調べのため、主として、どんな図書を利用したか。

	中 学				高 校			
	一 年	二 年	三 年	全 学 年	一 年	二 年	三 年	全 学 年
百科事典	15	32	55	102	34	59	47	140
歴 史	15	18	19	52	8	42	30	80
図 鑑	9	22	18	49	10	10	3	23
年 鑑	5	3	6	14	9	8	4	21
国語関係 辞 典	2	8	3	13	7	5	3	15
英語関係 辞 典		4	2	6		4	7	11
理科関係	9	14	15	38	8	3	1	12
文 学	2			2		7		7
地 図	3	4	1	8				
受験資料						3	21	24
旅行資料		1		1		3		3
芸 術					3			3
そ の 他	4	4	7	15	3	4		7
計	64	110	126	300	82	148	116	346

圧倒的に利用度の高いものは百科事典類である。各種とりそろえてはあるが、いっそう充実させるようにあらためて考えなくてはならない。

(5) 図書館資料によって、これまでどんな問題について調べたことがあるか。

(中 学)

○1年生—①理科(結晶・実験方法・コウモリの観察・微生物等)、②歴史(年代・古代の生活等)、③国語(ことば)、④その他(地図、デザイン、公害問題等)。

○2年生—歴史(オリエント文明・安土桃山文化等) 地理(台湾の年間輸出入、イギリスの湖沼地帯等)、公民(原爆の被害)、理科(地球の生い立ち、化学反応、天体、宇宙、植物、草の種類等)、国語(万葉集) クラブ(公害—水俣病)、芸術(デザイン)、自由研究(名古屋市交通局がなぜ赤字になったか、中山道等)

○3年生—歴史(仏革命、産業革命、ナポレオン、アヘン戦争等)、理科(地層、カプトムシ、植物、ミミズの生態等)、技術(風車、太陽熱発電、地熱発電、ディーゼル機関、ジェットエンジン等)、クラブ(公害問題)、国語(ことば)、修学旅行、その他。

中学全体として、調べのため、図書館資料がどの程度間に合ったかについては、「十分又はかなり間に合った」は約70%、「余り又は全く間に合わなかった」は約20%であった。

(高 校)

○1年生—公民(安楽死、女性問題、東京裁判、スモン病、原子力問題等)、歴史、理科(細胞・植物・鳳萊寺の地質等)、公害・家庭(食品、油脂)

○2年生—歴史(世界史)65名、古典17名、家庭14名、公害問題4名、保健2名、その他(生活保護法、自閉症等)7

○3年生—歴史43名、政経(憲法、日本経済、有事立法、原子力問題、広島原爆等)10名、公害問題8名、家庭科6名、古典4名、地理3名、旅行研究2名。

〈図書館資料はどの程度間に合ったと思うか〉

	高1	高2	高3	全学年
十分まにあった	4	4	4	12
かなり "	11	41	38	90
普通	4	6	7	17
余りまにあわなかった	21	21	17	59
全く "	12	7	4	23
計	52	79	70	201

中学生・高校生の図書館利用の実態と問題点

以上のような生徒の研究・調査のテーマに対しては、かなり資料不足であることは認めざるを得ない。他の公共図書館まで出かけて資料を求める生徒も多い。各

教科と図書館との関係において、資料の充実をはからなくてはならない。

(6) 図書館の雑誌の中で主として何を読むか。

(中 学)

	1 年			2 年			3 年			全 学 年		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
中 一 時 代	45	46	91	55	62	117	33	35	68	133	143	276
中 二 時 代												
中 三 時 代												
子供の科学	1		1	11		11	9	1	10	21	1	22
アサヒグラフ				2	1	3	2	1	3	4	2	6
毎日グラフ				1		1	4		4	5		5
週間朝日				2	1	3	4		4	6	1	7
科学朝日	1		1				4	1	5	5	1	6
アニマ					1	1	5	1	6	5	2	7
高一時代							3		3	3		3
高二時代							2		2	2		2
朝日ジャーナル							1	1	2	1	1	2
中学生文学										1		1
世界	1		1				2	2	4	4	3	7
その他	1		1	1	1	2	2	2	4	4	3	7
計	49	46	95	72	66	138	69	42	111	190	154	344

(高 校)

	1 年			2 年			3 年			全 学 年		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
高一時代	13	15	28	26	17	43	8	2	10	47	34	81
高二時代												
蛭雪時代				3	1	4	9	2	11	12	3	15
週刊朝日	4	1	5	8	3	11	4	6	10	16	10	26
毎日グラフ	2	6	8	3	3	6	2	2	4	7	11	18
アサヒグラフ	4	2	6	5	2	7				9	4	13
子供の科学	3		3	7		7	3		3	13		13
朝日ジャーナル	3		3		1	1	1	3	4	4	4	8
科学朝日	2	1	3				2		2	4	1	5
アニマ	1	4	5							1	4	5
高一時代				2		2	2		2	4		4
高二時代												
高三時代												
高校英語研究				1	1	2	1		1	2	1	3
世界	1		1				1		1	2		2
その他				1	2	3	4	1	5	5	3	8
計	33	29	62	56	30	86	37	16	53	126	75	201

図書館内の雑誌の読まれ方について、中学・高校を比較してみると、まず、読んだ延人数は345対201で中学の方がはるかに多い。しかし、中学生の場合、80%まで「中(一・二・三)時代」に限られている。今後、これに類する雑誌を可能な限り備えることが望ま

しいと思われる。「文芸春秋」等の総合雑誌類は、中学・高校ともにほとんど読まれていない。科学雑誌類は、中学・高校ともに男子に読まれ、女子には余り読まれていない。概して、読む内容より、見る内容のものが親しまれる傾向がわかる。

(7) 読書のために、本校の「推薦図書50選」(中学・高校別)を利用したことがあるか。

(中 学)

	1 年			2 年			3 年			全 学 年		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計 (%)
あ る	6	3	9	8	23	31	7	11	18	21	37	58 (23)
な い	16	20	36	26	13	39	25	22	47	67	55	122 (48)
全く知らなかった	23	15	38	8	9	17	12	6	18	43	30	73 (29)
計	45	38	83	42	45	87	44	39	83	131	122	253 (100)

(高 校)

	1 年			2 年			3 年			全 学 年		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計 (%)
あ る	5	11	16	3	4	7	7	4	11	15	19	34 (13)
な い	22	25	47	27	24	51	22	22	44	71	71	142 (55)
全く知らなかった	11	12	23	20	11	31	17	13	30	48	36	84 (32)
計	38	48	86	50	39	89	46	39	85	134	126	260 (100)

この表を見ると、折角の「推薦図書」がその意義を余り発揮していないことがわかる。中学で29%、高校で32%が「全く知らなかった」という実態は、実際の推薦を怠ってきた結果として反省させられる。

推薦図書の目録と共に、図書の現物をよく目立つ箇所に別置し、折にふれて生徒に推めることや、図書の選定に際しては生徒の声を反映させることが配慮されなくてはならない。

(8) 必要な図書を探すときにはどのようにするか。

	中 学				高 校			
	1年	2年	3年	全学年 (%)	1年	2年	3年	全学年 (%)
書架を見るのみ	70	78	69	217 (85)	71	83	72	226 (87)
目録もみる	7	6	11	24 (9)	11	6	11	28 (10)
係りの先生や委員にきく	6	3	7	16 (6)	4	0	2	6 (23)
計	83	87	87	257 (100)	86	89	85	260 (100)

必要な図書の探し方を指導することは図書館に課せられた最も重要な仕事のひとつと言ってもよいであろう。必要な図書を一応探して見つからなかったときはどうするか、の問いに対して、あきらめると答えた者が、中学・高校ともかなり多かった。あきらめて、他の図書館や書店へ行く者が多いが、あきらめる前に、ぜひ、司書や関係教師・図書委員に問い合わせるようにしたい。目録も極力、完備して利用されるようにしたいものである。

(9) 図書館に対する要望

中学・高校それぞれ、要望数の多かった順に、主なものを列挙すると次の通りである。

(中 学)

- クーラーを入れる。又は扇風機を増やす。
- 雑誌の種類をもっと増やす。(映画・スポーツ関係等)
- マンガの本も備える。
- 本の位置をわかりやすく示す。探しやすくする。
- 騒ぐ生徒がいるから静かにさせる。
- 図書委員が仕事をきちんと行う。
- 文庫本のセット(新潮・角川等)を入れる。
- 参考図書が古いので新しいものを備える。
- 学習参考書を充実させる。 等

(高 校)

- 館内が騒がしい(中学生が特に騒がしい、諸委員会

の会場に閲覧室が使われるので落ち着かない等)ので、何とか改める。

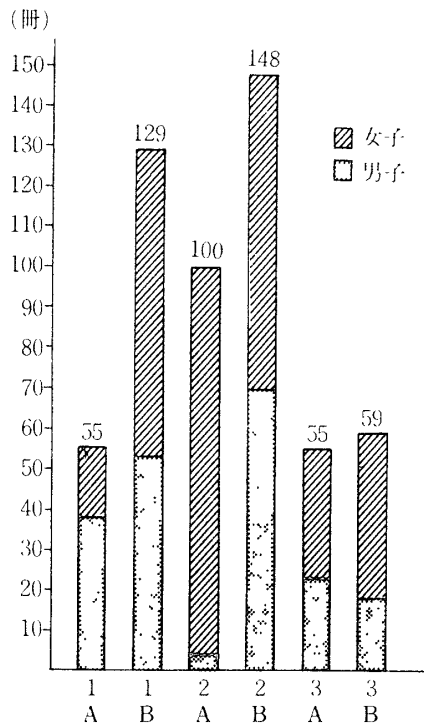
- クーラーを入れる。館内の照明をよくする。等。
- 雑誌をもっと増やす。(SF、カメラ、スクリーン、鉄道ジャーナル等)
- 古い本が多いから、新しいものに入れ換える。
- 書架の図書が探しにくいので、図書の配置を工夫する。
- 学習・研究用図書を充実させる。専門書を増やす。
- 図書委員はもっとまじめに責任を果たす。
- マンガ本、絵本、SFの類も入れる。
- 書名・著者名目録を備える。
- スポーツ新聞を変更する。等

B. 54年度第1学期中の図書貸出状況⁽²⁾

(1) 中学及び高校の各クラス別・男女別貸出冊数

(中学)

図1. クラス別・男女別貸出冊数



100冊以上のクラスは中1B、中2A、中2Bである。特に全体で148冊借出している中2Bは、男子も女子もよく利用しているといえる。

(2) 高校の分類別図書貸出状況

さて、同時に、各クラスで、どんな本を読んでいるか、調べてみた。二人以上の人を読んだ本は以下のものである。

- [中一A] すばらしい動物、埋もれた古代都市、シェイクスピア物語、18番目はチボー先生
- [中一B] 銀河鉄道の夜、太陽の子、シュヴァイツァー、アンネの日記、八つ墓村、中学生日記、ジキル博士とハイド氏、モモ
- [中二A] クリスマスカロル、メアリポピンズのお料理教室、魔術師のおい、さいごの戦い、手作り食品大草原の小さな家
- [中二B] 流血の安保闘争、自由と権利の戦い、スポーツ切手、国民権への道、地方自治の闘い、改憲対護憲、水生昆虫、野山の鳥、パズル生物入門、パズル物理入門、女の一生、ジキル博士とハイド氏・青春を生きる、軟式テニス、足ながおじさん、変身
- [中三A] 合言葉は手ふくろの片っぱ
- [中三A] ガラスのうさぎ、ロミオとジュリエット、TN君の伝記、心のふれあい、人生の名著15

(高校)

図2. クラス別・男女別貸出冊数

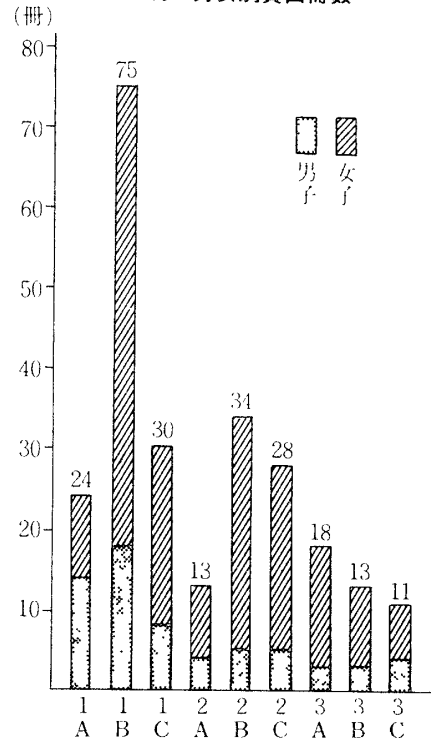
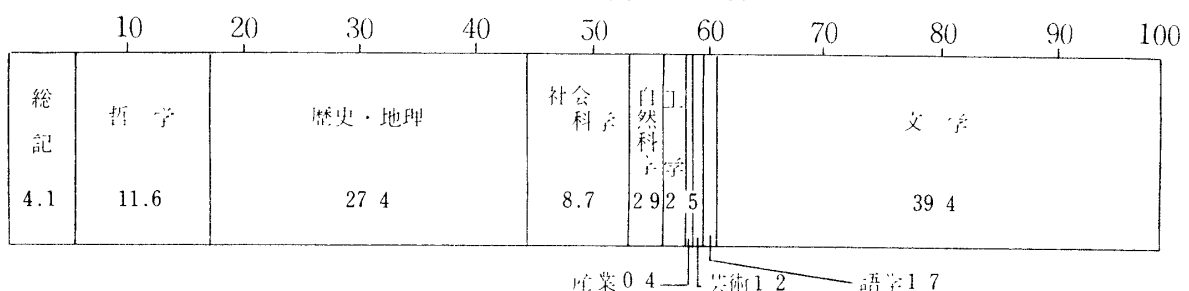


図3. 分類別に見た貸出の割合



54年度1学期4月から6月16日までの、貸出図書の実態調査を行ってみた。図2が学年クラス男女別の貸出冊数、図3は分類別に見た貸出の割合である。図2を見るとわかるように、各学年とも昨年同様女子の利用が男子よりもずっと多く、又、高1が例年になく多く借りている。たとえば高1Bなどは、昨年度1学期の高1各クラスの平均が33冊だったのに対し、わずかその半分の期間でもって75冊という倍以上の本を借りている。項目別においては例年通り文学書がよく読まれているが、歴史、地理関係の本が昨年14.8%だったのに倍増したことが特記に値する。

4. 今後の問題について

以上、本校生徒の図書館利用状況について記したが、単純で未熟な調査資料ながら、ここから無数といってよいほど数多くの問題について考えさせられる。最もきわだっていた状況は、3年間の在学中、図書を1冊も借出したことのない生徒が著しく増加していることである。近年の生徒は読書しなくなったとは、世間一般に言われることであるが、上記の資料は、そのような傾向を如実に反映しているとみてよいであろう。別に、高校生を対象として春休み中1日平均の読書、テレビ、ラジオ等に費す時間の調査を行なったことがあるが⁽³⁾それによると、1時間以上読書をする者25%、テレビを見る者66%。読書0時間の者は25%であった。このような実態の原因は、テレビ、受験競争、その他いろいろ考えられるが、今後はもっと掘り下げた調査によって原因や対策を探究する必要があるだろう。

明らかになった生徒のさまざまな実態を踏まえながら、今後の図書館のあり方として考えられる具体的な問題をあげてみよう。

中学でも高校でも、各教科の指導において、何らかの目標を与えて研究発表、論文・レポート・読書感想文等を課した場合、生徒は積極的に図書資料を利用す

るとい実態が認められる。特に教師の具体的に推薦した資料がよく利用される。このことは、教科に限らず、教科外の、部活動、クラブ活動、研究旅行、林間学校、文化祭等の学校行事等についても言える。この点に大きな可能性と期待をかけて、今後は図書館と教科又は教科外の指導とを密接に結びつけることが積極的に進められるとよいと思う。そのためには、図書資料の購入に際して、各教科担任又は、教科外指導の顧問としての教師はもとより、各学年にわたって、なるべく多数生徒の意見・要望を、広く反映させるように配慮しなくてはならない。これは図書館運営委員会、生徒図書委員会等の重要な検討課題の一つであろう。あるいは、「推薦図書50選」などの選定は、教師側、生徒側双方において、検討し、より一層適切なものに改訂していくことが望ましいと思われる。

次に、図書館主催の諸活動を、着実に指導することの必要性をあげたい。例えば、読書会、講演会、館報、新着図書紹介等の広報活動、読書傾向の実態調査とその結果の公表等が図書館利用指導に直結することはいうまでもない。

とりあげるべき問題は、その他数多くあるが、紙面もないのでこれだけにしておく。大切なことは、図書館運営が惰性的にならぬように、利用状況の実態と照らし合わせて図書館のあり方を反省し、沈滞化を克服していくことである。

〈注〉

(1)(3)米山 誠「生徒の図書館利用の実態」(第19回東海地区学校図書館研究大会「図書館利用指導の計画と実践」分科会での発表資料、1979.7.)

P.2~6

(2) 本校図書館報「窓」第3号(1979.7.20)

P.3~4